

# くすりのしおり

内服剤

2015年08月改訂

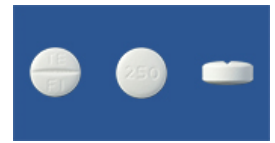
薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

## 商品名：メトホルミン塩酸塩錠 250mgMT「TE」

主成分：メトホルミン塩酸塩 (Metformin hydrochloride)

剤形：白色～帯黄白色の錠剤、直径 9.2mm、厚さ 4.2mm

シート記載：（表）メトホルミン MT「TE」、250mg、糖尿病用薬、TEF1、  
（裏）メトホルミン MT「TE」、250mg、糖尿病用薬、TEF1



## この薬の作用と効果について

肝臓で糖を作るのを抑えたり、筋肉での糖の利用を促したりして、血糖を下げます。通常、2型糖尿病の治療に用いられます。

## 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。乳酸アシドーシスを起こしたことがある、腎機能障害、透析を受けている、肝機能障害、心血管系障害（ショック、心不全、心筋梗塞など）や肺機能障害（肺塞栓など）などで低酸素状態になりやすい、お酒を多量に飲んでいる、脱水症、胃腸障害（下痢、嘔吐など）、ケトーシス、糖尿病性昏睡または前昏睡、1型糖尿病、感染症、手術前後、外傷、栄養不良状態、飢餓状態、衰弱状態、脳下垂体機能不全、副腎機能不全がある。
- ・妊娠している可能性がある、妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は<<<** :医療担当者記入>>>
- ・ **成人**：通常、1日2錠（主成分として 500mg）から開始し、1日2～3回に分けて食直前または食後に服用します。維持量は効果を観察しながら決められますが、通常1日3～6錠（750～1500mg）を1日2～3回に分けて服用します。症状により適宜増減されますが、1日最高服用量は9錠（2250mg）です。
- ・ **10歳以上の小児**：通常、1日2錠（500mg）から開始し、1日2～3回に分けて食直前または食後に服用します。維持量は効果を観察しながら決められますが、通常1日2～6錠（500～1500mg）を1日2～3回に分けて服用します。症状により適宜増減されますが、1日最高服用量は8錠（2000mg）です。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、1回飛ばして次の服用時間から通常どおり飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

## 生活上の注意

- ・ 指示された食事療法や運動療法をきちんと守ってください。
- ・ アルコールの飲みすぎ、シックデイ（発熱、下痢、嘔吐など）、脱水症状により乳酸アシドーシス（副作用の項参照）を起こしやすくなりますので、注意してください。
- ・ 低血糖の症状（副作用の項参照）があらわれることがあるので、高い所での作業や自動車の運転には十分注意してください。

## この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、下痢、吐き気、発疹、かゆみなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

**まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。**

**このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。**

- ・ 吐き気・嘔吐などの胃腸症状、過呼吸（深く大きい呼吸）、意識が薄れる [乳酸アシドーシス]
- ・ 脱力感、空腹感、冷汗 [低血糖]
- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・ 筋肉痛、脱力感、赤褐色の尿 [横紋筋融解症]

**以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。**

## 保管方法 その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局や医療機関に相談してください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。